

令和 2 年 度
事 業 報 告 書

社会福祉法人 明 成 会

目 次

- 1 事業総括.....
- 2 障害者支援施設オイコニア.....
- 3 グループホーム笑和.....
- 4 相談支援事業所わらわ.....
- 5 デイサービスセンター緑林荘.....
- 6 デイサービスセンターさくら貝.....
- 7 居宅介護支援事業所りょくりん.....
- 8 職員研修.....
- 9 配食サービス事業.....
- 10 宿舎運営事業.....

令和2年度 事業総括

新型コロナウイルス感染症の流行により社会活動が制限されるなか、一年が経過するも依然拡大傾向にあり、明成会独自の「新型コロナウイルス感染症対応の目安」に基づき感染予防対策を徹底した結果、現在までの所、法人内部から感染者を出すことなく事業運営ができていますが、さまざまな影響を受け事業計画の見直しを迫られました。

このような状況のなか、在宅サービスに係わる事業については、利用が制限されるケースもあり、利用率が低下し収入が減少する一方で、施設入所事業では高い利用率となるとともに請求算定基準の変更による増収部分が大きく法人全体では安定した運営を行うことができました。

今年度は以下の項目を重点に取組みました

◇新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金による感染症対策に要するかかり増し経費・環境整備等に要する費用を全事業所で5,506千円交付を受けるとともに、対象となる職員全員に慰労金50千円を支給することになりました。主な環境整備として、全事業所において空気清浄機を整備するとともに、オイコニアではオンライン面会が全ての居室からできるようWi-Fi環境を整備しタブレットの増台や面会室のパネル設置、また緑林荘も業務効率化を図るためのタブレットの増台を行いました。

さらに、職員研修については、宿泊を伴う研修は中止または延期となる中、WEB会議システムによるオンライン開催が主流となりました。そのため、今年度の研修計画を見直し、外部講師による施設内研修を計画し、中堅職員21名を対象とした「福祉職員の能力開発研修」として基礎編・ステップアップ編をそれぞれ2班に分かれ10月に1回目を行い、また3月予定の2回目は次年度に延期することになりましたが、これから継続して取り組むことになりました。

◇「人材確保・育成・定着」の一つとして昨年度から取り組んできた「高知県介護事業所認証評価制度」の認証取得は、6月に審査を受け7月に認証の授与を受けることができました。4月採用の4名の正職員に対し、新たに作成したOJTマニュアルによる「新入職員育成計画」に基づきより充実した人材育成に取り組む始めるなど一定の基準を整えることができました。

「働き方改革」について、オイコニアでは高知県介護福祉機器導入支援事業費補助金を活用しICT機器の導入事業として職員間の情報伝達・情報共有をスムーズに行うためのインカムを20台、ロボット等導入支援事業として職員の身体的・精神的業務負担の軽減を図るための眠りスキャン5台を導入しサービスの質の向上及び業務効率化に努めることとなりました。今後、他の事業所でも福祉機器の導入について更に検討を進めていく予定です。

◇地域における公益的な取組を推進するための“明成会地域サポート隊”活動として、7月と10月に六反地駅・施設周辺の草刈り、近隣の宅老所と連携した活動として10月に打合せを始め11月から月に1回出前講座（脳の活性化を目的とした体操）を始め、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により一時中止することもありましたが、再開後は他の宅老所への希望も聞かれ今後は3か所の宅老所と連携し活動していくことになりました。

今年度当初の課題であった法人全体の人件費については、当初予算前年度比9.1%上昇していましたが、退職者が出たため前年度決算比では5.1%の上昇となりました。また非正規職員の採用は難しく、正規職員の割合は増加傾向にあり3月末に77%まで引き上げられています。職員の状況としては、4月に正規職員4名、パート職員1名を採用しました。その一方で年度末に正規職員2名が退職、非正規職員2名が契約満了となりましたが、新年度に向け正規職員を1名採用することができました。オイコニアでは生活支援員の勤務時間帯の見直しに向けた検討を行うなど業務の見直しも進めてきました。

また、近年介護保険事業収入の減少が続いている中、現在の職員数で強化できる事業や対応策を検討してきました。その結果、来年度から居宅介護支援事業の人員体制の充実を図り介護保険事業の安定した経営を目指していくこととします。

その他、収支状況については財務報告にて報告し、以上を令和2年度の総括とします。

(1) 理事会・評議員会の開催

【 理 事 会 】

第1回 理事会 《令和2年5月26日（火）午後2時00分～午後3時10分》

＜理事：7名出席、監事：2名出席、顧問：欠席／議長：大崎和正理事＞

報告事項

①理事長・常務理事の職務執行の状況報告

事業経過及び予算執行状況、重要な契約内容など

第1号議案 令和元年度事業報告書の承認について

【提案理由】 定款第33条第1項の規定にもとづく報告並びに審議

＜令和元年度 明成会事業報告の提示＞

1. 事業総括
2. 障害者支援施設オイコニア
3. グループホーム笑和
4. 相談支援事業所わらわ
5. デイサービスセンター緑林荘
6. デイサービスセンターさくら貝
7. 居宅介護支援事業所りょくりん
8. 配食サービス事業
9. 収益事業（宿舍運営事業）

第2号議案 令和元年度決算関係書類の承認について

【提案理由】 定款第33条第1項の規定にもとづく報告並びに審議

＜令和元年度 財務諸表の提示＞

1. 財産目録
2. 貸借対照表
3. 資金収支計算書
4. 事業活動収支計算書

第3号議案 定時評議員会の日程等について

【提案理由】

定款第12条第1項の規定により、定時評議員会の日程等について審議

第4号議案 「役員等の報酬及び費用に関する規程」の改正について

【提案理由】

定款第10条第3項の規定にもとづき、評議員会において審議するための承認事項

第2回 理事会 《令和2年8月31日（月）午後1時55分～午後3時20分》

＜理事：7名出席、監事：2名出席、顧問：欠席／議長：吉岡美保子理事＞

報告事項

- ①理事長・常務理事の職務執行の状況報告
事業経過及び予算執行状況、重要な契約内容など
- ②人事異動について

第1号議案 デイサービスセンターさくら貝運営規程の一部変更にともなう審議

【提案理由】

利用者数の減少に伴う利用定員の変更

第2号議案 令和2年度第1次補正収支予算書の承認について

【提案理由】

定款第32条第1項の規定による審議

〔オイコニア拠点区分〕

〔緑林荘拠点区分〕

〔さくら貝拠点区分〕

〔笑和拠点区分〕

〔配食事業拠点区分〕

〔職員宿舍運営事業〕

第3回 理事会 《令和2年11月27日（金）午後2時00分～午後4時00分》

＜理事：7名出席、監事：2名出席、顧問：欠席／議長：瀧澤勝英理事＞

報告事項

- ①理事長・常務理事の職務執行の状況報告
事業経過及び予算執行状況、重要な契約内容など
- ②上半期の事業報告

第1号議案 令和2年度第2次補正収支予算書の承認について

【提案理由】 定款第32条第1項の規定による審議

〔オイコニア拠点区分〕

〔緑林荘拠点区分〕

〔さくら貝拠点区分〕

〔笑和拠点区分〕

〔居宅介護支援事業拠点区分〕

〔配食事業拠点区分〕

第2号議案 第2回評議員会の日程等について

【提案理由】

定款第12条第1項の規定により、定時評議員会の日程等について審議

第4回 理事会 《令和3年3月25日（木）午後2時30分～午後4時20分》

＜理事：7名出席、監事：2名出席、顧問：欠席／議長：八木雅昭理事＞

報告事項

- ①理事長・常務理事の職務執行の状況報告
事業経過及び予算執行状況、重要な契約内容など
- ②人事異動（令和3年4月1日付）による組織体制について

第1号議案 令和2年度第3次補正収支予算書の承認について

【提案理由】

定款第32条第1項の規定による審議

〔オイコニア拠点区分〕

〔緑林荘拠点区分〕

〔さくら貝拠点区分〕

〔笑和拠点区分〕

〔配食事業拠点区分〕

〔居宅介護支援事業拠点区分〕

〔職員宿舍運営事業拠点区分〕

第2号議案 令和3年度事業計画書の承認について

【提案理由】

定款第32条第1項の規定における令和3年度事業計画書の審議

第3号議案 令和3年度収支予算書の承認について

【提案理由】

定款第32条第1項の規定における令和3年度収支予算書の審議

第4号議案 諸規程の改正にともなう審議

- 「育児・介護休業等に関する規則」

【提案理由】

育児・介護休業法の改正にともなう一部改正

- 「居宅介護支援事業所りょくりん運営規程」

【提案理由】

介護支援専門員数の変更にともなう一部改正（再提案）

- 「グループホーム笑和 運営規程」

【提案理由】

障害者総合支援法の改正にともなう運営規程の一部改正

第5号議案 役員等賠償責任保険の加入及び内容の審議

【提案理由】

会社法の一部を改正する法律及び会社法の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律の施行に伴う社会福祉法関連規程の改正により役員等賠償責任保険に加入する場合の審議

【 評 議 員 会 】

定時評議員会 《令和2年6月17日（水）午後2時00分～午後3時05分》

評議員：11名出席、監事：2名出席、理事：4名出席

議長：佐々木香代評議員

議事録署名人：長谷部恵美評議員、山本哲資評議員

報告事項

- 1 令和元年度 第3次補正収支予算書（定款第32条第2項の規定による）
- 2 令和元年度 事業報告（定款第33条第2項の規定による）
- 3 令和2年度 事業計画書（定款第32条第2項の規定による）
- 4 令和2年度 収支予算書（定款第32条第2項の規定による）

第1号議案 令和元年度 決算関係書類の承認について

【提案理由】

定款第33条第2項の規定にもとづく審議

＜令和元年度 決算関係書類＞

1. 資金収支計算書
2. 事業活動計算書
3. 貸借対照表
4. 財産目録

第2号議案 定款の一部変更について

【提案理由】

定款第10条第1項第5号の規定にもとづく審議

オイコニア厨房増改築工事にともなう基本財産（建物）の床面積の変更

第3号議案 「役員等の報酬及び費用に関する規程」の改正について

【提案理由】

定款第10条第1項第2号の規定にもとづく審議

・役員等の報酬額の変更

第2回 評議員会 《令和2年12月24日（木）午後2時00分～午後4時00分》

評議員：10名出席、監事：2名出席、理事：4名出席

議長：戸田晶秀評議員

議事録署名人：浜田君子評議員、戸田悦子評議員

報告事項

- 1 令和2年度第1次・2次補正収支予算書（定款第32条第2項の規定による）
- 2 令和2年度 上半期事業報告
- 3 令和2年度 予算執行状況

(2) 役職員の研修等に関する事業

〔障害者支援施設オイコニア〕

- | | |
|----------|---|
| 6月18日(木) | 災害福祉支援委員会(高知市/大崎) |
| 7月1日(水) | 接遇知識マナー研修(高知市/坂本) |
| 27日(月) | 県経営協災害福祉支援委員会(高知市/大崎) |
| 29日(水) | 5S(環境整備)研修(高知市/津野・秋田) |
| 8月5日(水) | 県経営協青年会制度策定委員会(高知市/大崎) |
| 6日(水) | 四万十町教育福祉人材交流研修(大崎) |
| 12日(水) | 県経営協青年会理事会(高知市/大崎) |
| 25日(火) | メンタルヘルス研修(高知市/岡村) |
| 27日(木) | 県経営協青年会制度策定委員会(高知市/大崎) |
| 9月8日(火) | 県経営協理事会及び前期セミナー(高知市/岡村・大崎) |
| 24日(木) | 高知県強度行動障害支援者育成研修(高知市/笠岡・窪田)9/25迄 |
| 29日(火) | 県経営協青年会セミナー(高知市/大崎) |
| 10月6日(火) | 県経営協特別セミナー(高知市/岡村・大崎) |
| 14日(水) | 高知県相談支援従事者初任者研修(オンライン)(中平・田上)10/20迄 |
| 27日(火) | 高知県災害派遣福祉チーム養成研修企画会(高知市/大崎) |
| 31日(土) | 臨床実習指導者講習会(WEB講習会)(田上)(11/1、11/3) |
| 11月4日(水) | 新型コロナウイルス感染症対策研修会(オンライン)(竹内) |
| | 高知県強度行動障害支援者養成研修(高知市/田邊)(11/5迄) |
| 5日(木) | 中堅職員ステップアップ研修(高知市/山脇・長谷川) |
| 20日(金) | 高知県災害派遣福祉チーム養成研修企画会(高知市/大崎) |
| 26日(木) | ICT利活用研修(高知市/土居・田上) |
| 12月1日(火) | 高知県災害派遣福祉チーム養成研修企画会(高知市/大崎) |
| 9日(水) | 高知県災害派遣福祉チーム養成研修(高知市/大崎) |
| 18日(金) | 中四国ブロック青年検討会及び協議会会長会議(高知市/大崎) |
| 21日(月) | 県経営協後期セミナー及び理事会(高知市/岡村・大崎・矢野) |
| 1月26日(火) | 災害福祉支援委員会及び中四国ブロック災害支援セミナー(高知市/大崎) |
| 2月8日(月) | 高知県強度行動障害支援者養成研修(高知市/田邊・笠岡)2/9迄 |
| 10日(水) | 社会福祉施設総合保険制度説明会(高知市/岡村・大崎) |
| 3月3日(水) | 県経営協災害福祉支援委員会(高知市/大崎) |
| 9日(火) | 県経営協青年会理事会(高知市/大崎) |
| 11日(木) | 福祉サービス第三者委員ブロック別研修会
(四万十町/第三者委員:嶋岡・武吉、岡村・大崎) |
| 18日(木) | 障害者福祉サービス等事業所等向け説明会(高知市/中平) |

〔グループホーム笑和・相談支援事業所わらわ〕

- 6月30日(火) 高幡相談支援連絡会(中土佐町/山崎)
- 8月26日(水) 高幡相談支援連絡会(中土佐町/山崎)
- 9月24日(木) 高知県強度行動障害支援者育成研修(高知市/山崎) (9/25迄)
- 10月28日(水) 高幡相談支援連絡会(中土佐町/山崎)
- 12月9日(水) 高知県災害派遣福祉チーム養成研修(高知市/山崎)
- 24日(木) 高幡相談支援連絡会(中土佐町/山崎)
- 2月8日(月) 高知県強度行動障害支援者養成研修(高知市/山崎) 2/9迄
- 20日(土) 県地域移行・地域定着関係者研修(高知市/豊田)
- 3月12日(金) 高幡相談支援連絡会(中土佐町/山崎)
- 18日(木) 障害者福祉サービス等事業所等向け説明会(高知市/大崎・豊田)

〔デイサービスセンター緑林荘・居宅介護支援事業所りょくりん〕

- 8月2日(日) 県介護支援専門員連絡協議会高幡ブロック研修会(中土佐町:北川)
- 2月10日(水) 社会福祉施設総合保険制度説明会(高知市/西村)
- 3月17日(水) 介護報酬改定等説明会(高知市/西村)
- 19日(金) 介護報酬改定等説明会(四万十市/北川)

〔デイサービスセンターさくら貝〕

- 3月19日(金) 介護報酬改定等説明会(四万十市/岩崎)

(3) 施設・設備整備等の事業

今年度の施設・設備整備事業は、次のとおりです。

<注：10万円以上の「固定資産」「修繕」等を掲載>

[オイコニア]

[備品]

・パソコン（2台入替、1台増設）	614,240円	<四国電話工業(株)>
・床走行リフト	365,000円	<ワタキューセイモア(株)>
・タブレット（iPad12.9インチ）2台	320,540円	<陽和産業(株)>
・空気清浄機4台	1,080,000円	<榎ハマヤ>
・インカム20台	982,300円	<四国電話工業(株)>
・眠りスキャン5台	936,100円	<ワタキューセイモア(株)>
・個別昇降テーブル	173,800円	<(有)石原産業>
・カフェテリアユニット台（温蔵・炊飯）	1,040,600円	<(株)フジマック>

[ソフトウェア]

・給食栄養管理システム使用権更新	705,100円	<陽和産業(株)>
------------------	----------	-----------

[修繕他]

・防虫管理年間契約	192,000円	<(株)大進>
・ボイラ保守点検契約	104,500円	<(株)巴商会>
・空調機器修理	132,000円	<(有)高橋設備>
・脱衣場床改修工事	212,300円	<小松建設(株)>
・LAN配線増設工事	561,000円	<四国電話工業(株)>
・特殊建物定期報告書作成	264,000円	<小松建設(株)>
・掲示板クロス張替工事	280,000円	<小松建設(株)>
・プレハブ解体及び復旧工事	594,000円	<小松建設(株)>
・給水ポンプ修理	200,000円	<(株)荏原製作所>
・コンビオーブン修理	205,260円	<(株)フジマック>

[笑 和]

[修繕他]

・居室等扉の留め具取替工事	121,000円	<小松建設(株)>
---------------	----------	-----------

[備品]

・空気清浄機4台	651,200円	<(有)オフィスウエハラケアカンパニー>
----------	----------	----------------------

〔 緑 林 荘 〕

〔備品〕

- ・空気清浄機 380,000 円 <株ハマヤ>
- ・タブレット (iPad12.9インチ) 1台増設 221,760 円 <陽和産業(株)>

〔修繕他〕

- ・ボイラ保守点検契約 123,200 円 <(株)巴商会>
- ・ウォシュレット便座取替 170,500 円 <(株)日化住宅機器>
- ・機械浴ストレチャー修理 117,205 円 <(株)メディプレスト>

〔 りょくりん 〕

- ・空気清浄機 220,000 円 <株ハマヤ>

〔配食サービス事業〕

- ・配送車輛 (スズキ キャリィ冷凍車) 1,795,000 円 <高幡自動車整備協業組合>

《 障害者支援施設オイコニア 》

生活支援の状況

ご利用者の自己選択・自己決定を尊重しながら、その人らしい豊かな生活を送ってもらうために、何が必要であるかを共に考えながらサービスの提供に努めた。また、創作活動や機能訓練等による身体機能の維持、向上を図るとともに、個別支援計画を通じてご利用者の強みや障害特性、解決すべきニーズを把握し、その人にとって過ごしやすい環境への配慮、自立した生活へつながるよう取り組んだ。

日中活動事業である生活介護サービスについては、サービス内容の充実にむけて、支援体制の構築を図りながらより内容の濃い日中活動の提供を行った。毎回多くの参加希望者が募るクッキングでは切る・焼く・盛り付けるなどの調理作業をそれぞれのご利用者が分担し、和気あいあいと楽しいプログラムとして定着している。

居住支援事業の施設入所支援については業務見直し、ノーリフト、安全対策委員を中心に課題改善を図りながら、標準化された質の高いサービス提供にむけた取り組みを行った。また、10月よりインカム・眠りスキャンを導入し、業務の効率化を図るとともに、誤嚥性肺炎など急変が繰り返されるご利用者への早期対応を行うことで重症化や入院を防ぎ、施設生活が一日でも長く送れるよう取り組んだ。

ご利用者の利用状況については、今年度3名の入退所があったが現在は入所者数50名満床である。数名のご利用者が精神面の薬調整や呼吸障害などの入退院を繰り返されているが、状態観察・早期対応・受診により、入院日数を大きく減少することができた。5月には利用率100%を実現できている。また、入所待機者は多く、空所時のご利用者確保が見込めている。

短期入所については新規利用者も増え、稼働率も順調に推移している。通所においては、昨年度同様、新規利用者の利用予定はなく、施設入所や新型コロナウイルスの影響で利用控えもあり、稼働率が減少している。

新型コロナウイルス感染症対策として、職員のマスク着用、出勤前の検温等の実施、また高知県の感染者状況に合わせて面会等施設内立ち入り制限や、施設の行事や外出支援の中止等を実施している。また、職員の生活スタイルへの注意喚起等、施設へ持ち込まない意識付けについて継続して啓発を強化している。

1. 日常生活支援

各委員会が研究テーマを設け、中・長期目標達成に向けて定期的に見直しを行いながら、ご利用者の生活の質の向上に努めるとともに安全・安心した生活を送れる活動を行った。また、各職種間連携を強化し、ご利用者個々のニーズに沿った日常生活の充実が図れるように努めた。2月には各委員会が年間の活動報告をまとめ事例研究発表を行うことで、全職員が委員会活動の理解を行った。

1－①相談・支援活動

ご利用者と信頼関係を築けるよう、ご利用者の心身の状況や置かれている環境などの把握に努め、ご利用者やご家族の相談に適切に応じ、必要な助言その他の支援を行ってきた。また、ご利用者や職員、他のご利用者などから情報を収集し、問題の原因を検討し、問題解決に努めた。

1－②個別支援計画の充実

ご利用者のニーズを捉えた個別支援計画を作成するために、アセスメントを行い、ご利用者の生活全体を把握し、生活をしていくうえで解決すべきニーズを明らかにしながら、ご利用者（必要に応じてご家族等）の要望に基づき、3ヶ月に1回の定期的な支援計画の策定・見直しを行うとともに、支援方法にズレが生じないように努めた。

1－③日中活動

今年度は、外出行事が少なかった事から、日中活動を通して施設内でも楽しんでいただけるよう、カラオケ大会を行った。また作業療法士とも連携を図り、脳トレやクッキング、手洗い教室などリハビリを兼ねた活動も取り入れ、活動内容の幅が広がった。特にクッキングは毎回申込者が多い人気のプログラムである。普段はあまり日中活動への参加がない方も参加され、皆で協力して調理することを楽しむことができた。

物品保管庫の見直しや整理整頓、活動内容のマニュアル作成にも取り組み、担当者が困らないように改善を図った。

1－④安全対策

困りごと解決カードやありがとうメッセージへ記入してもらい、日頃の困りごとなどの把握に努めた。定期的に、事故報告の集計・分析を行い、環境面のヒヤリハットも多くあった。福祉車両の取り扱いや、事故・ヒヤリハットについての研修を行い、ご利用者の安全確保に対する職員の意識向上を図った。

1－⑤生活向上

職員へ介助や福祉用具などの分からないことや疑問点についてアンケートを実施した。その結果から、マルチグローブの使用の基本研修や、紙パンツからフィットパンツへ移行するための取組み、知的障害・発達障害・高次脳機能障害への対応のヒントとなる資料の設置を行った。

1－⑥業務改善

業務内での改善点や職員からの意見を元に、定期的に話し合いの場を持ち、改善案を出し、伝達を行った。今年度は、おしぼりを作る時間の削減と衛生面を考慮し、使い捨てのおしぼりへの変更を行った。また、インカムと眠りスキャンの導入により、どう効率よく活用していくかについて検討し、実施した。

1－⑦環境整備

喫煙場周辺のネット張りを行い、つばめが進入しないように対応を行った。また、一般浴のタオル入れを設置し、タオルが濡れないようにした。エアコンフィルターの掃除や加湿器の設置を随時行った。

1－⑧マニュアル

今年度は、食事と入浴の介助マニュアルが完成し、職員へ周知徹底を図った。誰が見ても分かるように文章と写真を用いて可視化した。

1－⑨懇親会

ご利用者がより安心し快適な生活を提供できるよう、月1回の利用者自治会懇談会、及び2ヶ月に1回の利用者懇談会を開催し、意見や要望に対し真摯に受け止め対応に努めた。自治会役員からは、他のご利用者からの意見や要望が時々提案された。その内容へも丁寧な対応に努めた。

1－⑩苦情解決

苦情窓口と処理のための第三者委員の役割を明確化し、ご利用者の苦情に対し誠実に速やかに対応できる体制の確保を行った。今年度は新型コロナウイルス感染症に対して第三者委員の方も考慮し訪問はなかった。ただし、ご利用者から訴えがあれば第三者委員へも報告できるように体制は整えた。

生活介護・施設入所支援（入所）

1. 市町村別入所者数一覧

令和3年3月31日現在

	南 国 市	高 知 市	四 万 十 市	宿 毛 市	土 佐 町	津 野 町	佐 川 町	日 高 村	越 知 町	梶 原 町	中 土 佐 町	四 万 十 町	黒 潮 町	大 月 町	合 計
男性	1	1	2	2	1	1	1	0	1	1	5	14	2	2	34
女性	0	3	1	0	0	0	1	1	0	1	0	8	1	0	16
計	1	4	3	2	1	1	2	1	1	2	5	22	3	2	50

2. 障害別一覧表

障害名	男性	女性	合計
脳性麻痺	8	2	10
筋ジストロフィー	1	1	2
脊髄損傷	8	0	8
脳疾患による後遺症	7	6	13
頭部外傷後遺症	3	0	3
痙性麻痺	0	2	2
水頭症	1	0	1
パーキンソン病	1	0	1
ダウン症	1	1	2
知的障害	2	0	2
自閉症	1	1	2
その他	1	3	4
合計	34	16	50

3. 障害・療育手帳別一覧表

手帳類	男性	女性	合計
第1種1級	25	10	25
第1種2級	2	3	5
第1種3級	1	0	1
第2種2級	1	0	1
第2種3級	1	0	1
療育 A1	3	0	3
療育 A2	0	2	2
手帳なし	1	1	2
合計	34	16	50

4. 年齢別一覧表

年齢	男性	女性	合計
20歳～29歳	0	0	0
30歳～39歳	4	1	5
40歳～49歳	4	3	7
50歳～59歳	7	1	8
60歳～69歳	13	4	17
70歳～79歳	4	5	9
80歳 以上	2	2	4
合計	34	16	50

5. 平均年齢

令和3年3月31日現在

	最少年齢	最高年齢	平均年齢	男女平均年齢
男性	31歳7ヶ月	82歳9ヶ月	59歳0ヶ月	60歳9か月
女性	37歳3ヶ月	90歳9ヶ月	64歳6ヵ月	

6. 食費等徴収額

令和3年3月31日現在

No.	食費等負担額 (円)	人数	No.	食費等負担額 (円)	人数
1	0	5	17	45,360	2
2	2,611	1	18	45,391	5
3	16,158	1	19	45,422	2
4	22,730	1	20	45,453	2
5	33,828	1	21	45,763	1
6	35,812	1	22	45,825	1
7	36,184	1	23	45,918	1
8	36,277	1	24	46,910	1
9	37,114	1	25	47,654	1
10	41,268	1	26	47,716	1
11	42,668	1	27	48,522	1
12	44,058	1	28	49,700	1
13	44,802	1	29	50,971	1
14	45,143	1	30	51,467	1
15	45,267	2	31	53,110	8
16	45,298	1	合計		50

7. 上限月額徴収額

令和3年3月31日現在

No.	負担上限月額 (円)	人数
1	0	50
合 計		50

8. 障害程度区分

令和3年3月31日現在

区分	男性	女性	合計
3	0	1	1
4	6	1	7
5	7	3	10
6	21	11	32
合 計	34	16	50

9. 月別入退所及び月末在籍者数

平均障害程度区分 5.5

	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10 月	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
入 所	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
退 所	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
在籍者数	34	16	34	16	34	16	34	16	34	15	34	16	34	16

	11 月		12 月		1 月		2 月		3 月		小計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
入 所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
退 所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
在籍者数	34	16	34	16	34	16	34	16	34	16			

10. 月別利用実績

月別	延べ日数	外泊日数	入院日数	外泊等の合計
4月	1, 431日	0日	42日	42日
5月	1, 550日	0日	0日	0日
6月	1, 455日	1日	44日	45日
7月	1, 466日	2日	82日	84日
8月	1, 470日	0日	61日	61日
9月	1, 464日	0日	36日	36日
10月	1, 519日	0日	31日	31日
11月	1, 477日	0日	23日	23日
12月	1, 539日	0日	11日	11日
1月	1, 527日	0日	23日	23日
2月	1, 392日	0日	8日	8日
3月	1, 522日	4日	24日	28日
合計	17, 812日	7日	385日	392日

前年度延べ日数 17, 541日

11. 金銭管理状況（令和3年3月31日現在）

	男性	女性	計
全て自己管理	4	2	6
一部自己管理	4	5	9
全て施設管理	17	7	24
家族が管理	6	1	7
成年後見人	3	1	4
計	34	16	50

全て自己管理＝印鑑、通帳、現金等全て自分で管理している。

一部自己管理＝通帳や印鑑、負担金等の支払は施設で行い、小遣程度の現金のみ自分で管理する。

全て施設管理＝通帳や印鑑、負担金等の支払、買い物等も施設が管理し行う。

家族等が管理＝年金は家族が管理を行い、日用品等の支払いは本人または施設が行う

生活介護（通所）

1. 利用実績

月 別	延べ日数	利用実人数	月 別	延べ日数	利用実人数
4月	49日	7人	11月	36日	5人
5月	44日	5人	12月	5日	4人
6月	52日	7人	1月	14日	5人
7月	56日	7人	2月	36日	5人
8月	52日	7人	3月	39日	5人
9月	36日	6人			
10月	36日	6人	合 計	455日	69人

※ 支給決定市町村：四万十町・中土佐町

前年度延べ日数 656日

2. 障害程度区分

令和3年3月31日現在

区分	男性	女性	合計
3	2	2	4
4	0	1	1
5	0	1	1
6	1	0	1
合 計	3	4	7

平均障害程度区分 3.8

短期入所

1. 利用実績

月 別	利用実人数	延べ日数	月 別	利用実人数	延べ日数
4月	11人	69日	11月	13人	86日
5月	11人	76日	12月	5人	25日
6月	10人	80日	1月	1人	31日
7月	12人	72日	2月	3人	52日
8月	12人	93日	3月	11人	82日
9月	11人	73日			
10月	11人	82日	合 計	111人	823日

※支給決定市町村：高知市・土佐市・須崎市・佐川町・黒潮町
越知町・津野町・中土佐町・仁淀川町
四万十町

前年度延べ日数 907日

2. 障害支援区分

令和3年3月31日現在

(障害児)

区分	男性	女性	合計
1	0	0	0
2	0	0	0
3	2	0	2
合 計	2	0	2

平均障害程度区分 3.0

(障害者)

区分	男性	女性	合計
1	0	0	0
2	0	0	0
3	1	4	7
4	3	4	7
5	1	2	3
6	3	1	4
合 計	8	11	19

平均障害程度区分 4.6

日中一時支援（タイムステイ）

1. 利用実績

月 別	利用実人数	延べ日数
7月	1人	1日
8月	1人	1日
合 計	2人	2日

※ 支給決定市町村：四万十町・黒潮町

前年度延べ日数 2日

2. 障害程度区分

令和3年3月31日現在

(障害児)

区分	男性	女性	合計
1	0	0	0
2	1	0	1
3	0	0	0
合 計	1	0	1

(障害者)

区分	男性	女性	合計
1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	1	0	1
合 計	1	0	1

主な行事等実施状況

1. 施設内行事

開催日	行事名	場所	実施回数	実施内容
令和2年4月4日	お花見	屋内	1回	季節を感じてもらおうと共にご利用者・職員との親睦を深める。
令和2年6月24日 令和2年8月27日 令和3年2月19日	レストラン	屋内	3回	レストランメニューの中から自由に注文し味わってもらおう。
令和2年7月10日	夏祭り	屋内	1回	ご利用者・職員とともにまつりの雰囲気を楽しみながら親睦を深める。
令和2年12月11日	クリスマス・年忘れ会	屋内	1回	ご利用者・職員ともに1年の無事を祝い、余興等行い楽しい一時を過ごす。
令和3年1月15日	新年会	屋内	1回	新しい年の抱負を語り合い、余興などを楽しむ。

(施設外ショッピング)

ショッピングに行きたいとの要望には、毎週日曜日の買い物の日に提供するとともに、随時要望に応じて対応するよう努めた。ただし、緊急事態宣言期間中や須崎福祉保健所管内で発症者が確認された場合、県の新型コロナウイルス感染症対応レベルが警戒になった場合には中止していた。

(注文買物)

本人からの要望や外出が困難なご利用者に対しては、月曜日に自治会で注文を受け付け、職員が代わって買物を行った。

(園内喫茶)

毎週木曜日に「由菜の里」の出張喫茶を開店している。ただし、緊急事態宣言期間中や須崎福祉保健所管内で発症者が確認された場合、県の新型コロナウイルス感染症対応レベルが警戒になった場合には、職員対応でケーキと飲み物の販売を行った。

(整容)

月1回外部の美容院と理髪店に依頼し、カットや髪染め・パーマなどの施術を園内で行った。

2. 外出行事

実施日	行き先等	人数	実施日	行き先等	人数
4月	ドライブ(町内)	4人	9月	ドライブ(黒潮町)	4人
6月	ドライブ(四万十市)2回	8人		ドライブ(中土佐町)	4人
7月	ショッピング(イオン高知)	5人		ドライブ(町内)	3人
	ドライブ(中土佐町)2回	8人	10月	魚釣り	5人
8月	ドライブ(町内)	4人	11月	ドライブ(黒潮町)	5人
	ドライブ(黒潮町)2回	8人	2月	ドライブ(黒潮町)2回	8人

※外出行事年回合計16回実施

<外出について>

令和3年3月31日現在

	男性	女性	合計
自己決定で単独外出している	5	3	8
自己決定で付き添って外出している	23	10	33
外出について意思表示が困難	6	3	9
計	34	16	50

※自己決定の困難な(意思表示の困難)ご利用者については職員が適宜、外出の機会を作り出来るだけ施設外に出て余暇を楽しめるように努めている。

3. 防災訓練

(1) 防災訓練

実施日	参加者	内 容
令和2年5月26日	入所者：43名 通所者：0名 短期：2名 職員：15名 計60名	昼間に地震が発生し、厨房より火災が発生したと想定し、通報・消火・避難を行う
令和2年7月29日	入所者：43名 通所者：1名 短期：1名 職員：18名 計63名	総雨量が500ミリを超えており、第2駐車場が川の増水により冠水している状態を予測して昼間想定にて風水害・土砂災害避難訓練を行う。
令和2年9月29日	入所者：38名 通所者：2名 短期：2名 職員：18名 実習生：1名 計61名	昼間の地震を想定し、避難を行う。
令和2年11月25日	入所者：41名 通所者：1名 短期：2名 職員：16名 計60名	厨房を火元に昼間の火災発生を想定し、通報・消火・避難を行う。
令和3年1月29日	入所者：43名 通所者：1名 短期：1名 職員：16名 計61名	夜間の地震を想定し、避難を行う。
令和3年3月23日	入所者：44名 通所者：1名 短期：1名 職員：14名 計60名	夜間に地震が発生し、せせらぎ汚物処理室より火災が発生したと想定し、通報・消火・避難を行う

(2) 危機管理・防災対策委員会

開催日	内容
令和2年5月15日	BCPに関する見直しの検討及び年間計画の作成
令和2年8月13日	参集訓練の内容及び備品の購入計画について検討
令和2年11月30日	9月の参集訓練の振り返りと来年度に向けての検討
令和3年3月3日	来年度に向けての検討

※「職員安否確認・参集システム」を活用した研修会等の参加確認を実施

食生活支援の状況

今年度も3食カフェテリア方式での選択食の提供を実施した。今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策により、様々な行事の縮小や中止、外食支援も実施できない一年となり、ご利用者の生活にも大きな影響があった。その中、コロナ禍の制限ある生活の中における‘楽しみ’や‘生活の潤い’が持てるよう多職種と連携をはかり、代替えとなる食事イベントを企画し、ご利用者に喜んでいただける食事支援を行った。

給食食材管理においては、月間管理を行いおおむね予算内で納めることができた。

1. 食生活の状況

食事摂取基準に基づいた献立の作成を実施した。加齢や障害の重度化による個々の特性に合わせた食事形態の提供（ミキサー食、ソフト食、きざみ食など）や医師指示のもと治療食も実施しており、多職種と連携した支援を行うことで重症化を防ぐよう努めた。

2. 栄養ケアマネジメント

ご利用者個々の栄養健康状態やニーズに合わせた栄養ケア計画の作成、見直しを行った。ご利用者、職員ともに支援計画と合わせてモニタリングすることで個々の健康状態や課題を総合的にみることができた。

3. ニーズの反映

月1回の利用者食生活検討会や嗜好アンケート調査（年1回）、残渣調査（計量）の結果、また日常的にご利用者とコミュニケーションを多くとるよう心がけ、ご利用者の嗜好の把握に努めた。また、意見・要望には出来るだけ早く応えるよう努力した。

4. 委託業者との連携

朝礼や申し送り、依頼文書等によりご利用者への対応方法や実施献立の説明と実施後の反省と改善等細かな連絡、指導を実施し委託業者との連携を図った。また、温度管理や食材搬入表などにより食材のより良い鮮度・品質の確保に努めた。マニュアルに基づいた衛生管理の実施、老朽化する調理設備・器具の点検等を行いご利用者に安全で喜ばれる食事の提供に努めた。

5. 行事食

・レストラン（3回実施）

毎回、レストラン担当職員とテーマを決め、テーマに合わせた献立を5種類準備し、好きなものを注文してもらっている。装飾・衣装など趣向を凝らし好評を得た。

【今年度のテーマ】 6月 あじさい・8月 ハワイアン・2月 ハッピーバレンタイン

・イベント食

タコ焼きパーティー・パンバイキング・四万十町ラーメンお取り寄せ
バーベキュー・ほっかほっか亭弁当

・今年度の主な行事食

- 4月 開設記念祝い御膳 お花見弁当
- 7月 夏まつり
- 12月 クリスマス年忘れ会（皿鉢・寿司・たたき・クリスマスケーキなど）
- 1月 おせち料理・新年会（皿鉢・にぎり寿司など）

*その他、祭日や四季折々にあわせた行事食を提供し、食生活に変化と潤いを与えるよう努めた。

日常生活活動に対するリハビリの状況

ご利用者一人ひとりの性格や疾患の特性、ご利用者とご家族の要望を把握したうえで、身体機能や精神機能、認知機能、日常生活状況などの評価を行い、評価に基づきニーズを導き出した。リハビリ内容は身体機能面のみに目を向けるのではなく、各個人にとって価値のある活動を展開し、各疾患の特性に応じた幅広い活動を提供した。車椅子や装具については、身体機能、生活状況等の評価を行い、生活状況を考慮した上で評価用紙を作成、各個人に合ったものを検討し適合を行った。精神障害・発達障害を伴うご利用者の疾患特性に合わせ、集団作業療法の場として日中活動にて集団レクリエーションを実施した。

1. 残存機能の維持と改善・廃用症候群の予防・生活行為を向上するためのマネジメント

身体機能維持、生活動作の維持・改善を目的に、必要な機能訓練を実施した。身体状況の変化に合わせてリハビリ内容を検討し、必要に応じて変更を行った。生活動作に関しては、ご利用者からの訴えや他職種からの情報、日々の身体状況を元に生活場面へ介入した。実際の生活場面での評価から動作訓練を行うとともに、自助具等の検討や工夫を行った。また、実際場面での伝達を行い他職種との連携を図りながら、ご利用者ひとりひとりに合った福祉用具を検討し導入している。

2. 社会生活意欲の向上

集団生活を送る上で他ご利用者とトラブルとなることが多いご利用者に対して、トラブルを予防し集団という社会の中でその人らしく暮らしていくことを目的に、視覚的に指示が分かりやすいような環境設定をしたり、行動のルーティーンを置き換えるための方法を検討する等のアプローチを行った

3. 意欲的活動性の向上

ご利用者の興味・関心ある活動を実施することで、楽しみや自己有能感を感じてもらうことを目的に、ニーズの聞き取りを行いながら各個人に合わせた活動を提供した。集団作業療法では、難易度や活動内容を工夫しながら、幅広い年齢、疾患に対応できるような活動を実施した。

4. 車椅子・自助具等福祉用具の提案作成

車椅子に関しては、必要な場合には業者に相談し、本人の身体状況や生活状況に合わせたオーダーメイドのものを作成した。日常生活で使用する自助具は、本人や他職種から依頼があった際や必要と判断した際に作成、修繕を行った。新規購入時などには、修繕、再度購入することなども考慮して本人や職員が管理し続けやすいものを提案した。

5. リハビリ実施状況

今年度リハビリの対象として行ったご利用者の数は、入所者48名、通所者6名、短期入所者4名（加算外）である。実施頻度について入所者は週1～3回、自主トレーニング可能な方は週1～5回実施しており、通所の方については利用日に実施している。1日に実施している人数は合計6～25名、平均15.2名である。

健康管理の状況

加齢による身体機能の低下が顕著であることから、ご利用者の日々の健康状態の把握に努め、疾病の早期発見と治療、予防へと他職種と連携をしながら今年も取り組みを行ったが、今年度は持病悪化にて2名のご利用者が死亡された。近年、精神科疾患のご利用者が多く、受診回数も増えてきている。入院状況としては、誤嚥性肺炎の入退院が多く、経管栄養ご利用者に対し、水分量を減量した高カロリーな物に変更し、1名のご利用者は、変更後入院することなく過ごす事ができた。また、前年度より入院延べ日数が約200日減った。しかし、誤嚥性肺炎での入院は続いており、引き続き嘱託医と相談しながら支援に努める。

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、この1年は、面会制限を行い外出は控え、ご利用者は毎日検温測定を行い、職員出勤時には体温測定、マスク着用、手洗い、うがいを徹底し、換気やアルコール消毒にて感染対策に努めた。結果、新型コロナウイルス感染症他、インフルエンザ、ノロウイルスの感染者を出すことなく終える事ができた。今後、新型コロナウイルス感染症に対しては、ワクチン予防接種も開始できる運びとなるが、引き続き感染対策を強化していく。

1. 取り組み

実施月	内 容
4月	ご利用者健康診断の実施（胸部レントゲン・検尿・採血）
5月	職員健康診断の実施（胸部レントゲン・検尿・採血）
6～9月	食中毒の予防
10月	ご利用者の健康診断の実施（検尿・採血）
10月	職員季節型・新型インフルエンザ予防接種（嘱託医により実施）
10月	ご利用者季節型・新型インフルエンザ予防接種（嘱託医により実施）
11月	職員健康診断の実施（検尿・採血）
11～3月	ご利用者・職員のインフルエンザ・ノロウイルス等感染症の予防
4～3月	コロナウイルス感染症予防 歯科医による往診にてご利用者の口腔衛生について1回/月の指導 嘱託医師にて2回/週（水・土）に定期回診

2. 通院状況

通院科目	実人数	延べ回数	通院科目	実人数	延べ回数
歯 科	29人	38回	外 科	7人	14回
内 科	7人	26回	脳神経外科	5人	11回
泌尿器科	7人	30回	神経内科	4人	15回
整形外科	4人	11回	精神科	6人	30回
皮膚科	3人	11回	眼 科	3人	3回
消化器内科	1人	1回	脳神経内科	1人	1回
耳鼻科	0人	0回	胃瘻交換	6人	9回
乳腺外来科	1人	1回	合 計	84人	201回

3. 入院状況

入院科目	実人員	延人数	延べ日数
泌尿器科	2人	4人	72日
内 科	5人	8人	206日
脳神経外科	1人	1人	57日
脳神経内科	1人	1人	6日
精神科	1人	1人	44日
合 計	10人	15人	385日

4. 特別な医療行為者数

令和3年3月31日現在

区 分	人 数	
気管切開の処置	1人	
経管栄養	経 鼻	1人
	胃ろう	6人
バルンカテーテル	8人	
合計（重複者あり）	16人	

《グループホーム笑和》（共同生活援助）

地域で自立した日常生活及び社会生活を営むことができるように、相談支援事業所や就労支援事業所等の各関係機関と連携を図るとともに、ご利用者のニーズに応じた支援ができるよう6ヶ月に1回の定期的な支援計画の策定・見直しを行い、支援方法にズレが生じないように努めた。

昨年度末より精神面での不調を訴え入院をしていた女性ご利用者に対し、長期間の入院となっているため、7月31日付で契約解除となった。そのため、新たな利用者確保にむけて四万十町在住の知的障害のある女性に入所を働きかけ、8月末より体験利用で3回の受入れを行い、10月12日に正式入所となり、男性5名、女性4名の合計9名となる。精神面で不安定なご利用者については、日々の状態を観察し、表情や行動に変化を感じた際には相談支援専門員や各関係機関と連携をし、適切な対応を図り、長期入院とならないように努めることができた。しかし、男性ご利用者で足底感染症にて手術が必要となり約1月間の入院と、ヘルニアの悪化による約2週間の入院期間はあったものの年度当初の目標稼働率の達成はすることができた。

環境整備として、受動喫煙防止対策でテラスの整備を計画していたが、収支の状況を鑑みて次年度に繰り越すこととした。また、職員は勤務前の検温やマスクの着用、施設内の換気、消毒といった対策を講じ、新型コロナウイルス感染症対策を行った。

1 事業内容

- (1) 日常生活の支援
- (2) 社会生活の支援
- (3) 医療的支援
- (4) 日中活動支援
- (5) 社会生活の支援
- (6) 個別支援計画の作成

2 行事内容

	行事名
4月	誕生日会、避難訓練（昼間火災想定）
5月	誕生日会、避難訓練（昼間地震想定）
6月	クッキング、避難訓練（夜間風水害想定）
7月	ショッピング（サニーアクシス）、避難訓練（夜間火災想定）
8月	避難訓練（夜間地震想定）
9月	誕生日会、避難訓練（昼間風水害想定）
10月	誕生日会、避難訓練（昼間火災想定）
11月	誕生日会、避難訓練（昼間地震想定）
12月	ショッピング（フジグラン四万十）、クリスマス会、避難訓練（夜間風水害想定）
1月	誕生日会、クッキング、避難訓練（夜間火災想定）
2月	誕生日会、避難訓練（夜間地震想定）
3月	クッキング（花見）、避難訓練（昼間風水害想定）

3 市町村別入所者数（令和3年3月31日現在）

	男性	女性	合計
四 万 十 町	4	3	7
中 土 佐 町	1	1	2
合 計	5	4	9

4 年齢別入所者数（令和3年3月31日現在）

	男性	女性	合計
1 9 歳 以 下	0	1	1
2 0 歳 ～ 2 9 歳	1	1	2
3 0 歳 ～ 3 9 歳	0	0	0
4 0 歳 ～ 4 9 歳	0	1	1
5 0 歳 ～ 5 9 歳	2	0	2
6 0 歳 ～ 6 4 歳	2	1	3
6 5 歳 以 上	0	0	0
合 計	5	4	9

	男性	女性
最 小 年 齡	2 6 歳 6 ヶ月	1 9 歳 5 ヶ月
最 高 年 齡	6 3 歳 1 ヶ月	6 2 歳 4 ヶ月
平 均	5 1 歳 5 ヶ月	3 6 歳 5 ヶ月
男 女 平 均	4 4 歳 9 ヶ月	

5 障害支援区分別利用実績集計表（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
非該当 (体験含む)	32	31	30	31	31	39	58	41	31	31	28	31	414
区分1	54	56	34	57	51	56	59	53	59	57	40	57	710
区分2	57	56	54	58	54	56	56	73	84	84	79	90	801
区分3	69	71	70	80	81	79	85	82	85	79	81	87	949
区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延人数	212	214	188	226	217	230	258	249	259	251	228	265	2,797

6 入院状況（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

入院科目	実人員	延人数	延べ日数
内 科	1	1	11
精 神 科	1	1	112
整 形 外 科	1	1	15
合 計	3	3	138

7 外泊状況（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

	実人員	延人数	延べ日数
4月	4	13	30
5月	4	12	34
6月	4	11	28
7月	4	12	22
8月	4	11	31
9月	4	10	19
10月	4	15	17
11月	4	11	21
12月	5	12	20
1月	4	8	28
2月	5	12	11
3月	5	14	14
合 計	51	141	275

《相談支援事業所 わらわ》

令和2年度も四万十町役場健康福祉課や各事業所と連携しながら、主に町内で在宅生活をされている方の計画相談支援や地域生活支援事業における相談支援などに取り組んできた。

令和3年3月末現在、計画相談で受けている方は108名（児童1名を含む）で、四万十町から委託されている地域生活支援事業は13名である。相談支援専門員は、その方々の計画相談だけでなく日頃困っていることについての相談ごとについてもより細やかに対応することに努めている。また、個別支援会議やケース共有会へも参加し、課題の検討や情報の共有を行ってきた。

今年度当初、障害者相談支援センター四万十からの引継ぎや支給決定期間の見直しから、当初予算を上回る収入を得ることができた。しかし、町内でも遠方にお住いの方々の支援に関わるようになり、頻回な訪問に加え、移動距離もあり、一件の訪問に対し時間を要すようになってきている。また、各支援機関の新型コロナウイルス感染症対策から、サービス等利用計画の見直しを頻回に行った。

1 事業内容

- ① 指定一般相談支援（地域移行・定着）
 - ・ 地域移行支援
 - ・ 地域定着支援
- ② 指定特定相談支援事業（計画作成）
 - ・ サービス利用支援
 - ・ 継続サービス利用支援
- ③ 障害児相談支援事業（計画作成）
 - ・ 障害児サービス利用支援
 - ・ 障害児継続サービス利用支援
- ④ 四万十町相談支援事業
 - ・ 福祉サービスの利用の援助
 - ・ 社会生活力を高めるための支援
 - ・ 専門機関の紹介
 - ・ 調整会議等への参加
 - ・ 社会資源を活用するための支援
 - ・ 権利擁護のために必要な援助
 - ・ その他の生活相談に対する助言・指導

2 相談受理件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
指定一般相談	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
指定特定相談	37	20	21	28	20	31	25	20	23	16	24	14	279
障害児相談	1	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	3
四万十町相談	12	36	21	20	4	3	8	11	6	6	7	4	138

3 相談支援方法別件数（特定相談）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問	38	28	35	39	33	36	36	52	30	49	33	31	440
来所	17	6	8	6	4	3	5	5	3	4	2	4	67
同行	6	2	4	3	4	5	6	6	10	5	4	7	62
電話	76	65	78	88	76	88	76	49	78	53	32	31	790
メール	3	4	5	9	11	15	11	6	8	10	5	12	99
関係機関連携	78	64	72	89	80	92	64	68	75	72	38	48	840
個別支援会議	1	2	2	3	3	5	4	1	-	-	2	-	23
その他	6	4	11	18	21	32	19	2	1	1	2	-	117
合計	225	175	215	255	232	276	221	189	205	194	118	133	2,438

4 相談支援方法別件数（障害児相談）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問	2	-	-	-	2	-	-	-	-	2	-	-	6
来所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
同行	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
電話	1	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	1	4
メール	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
関係機関連携	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	4
個別支援会議	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
その他	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2
合計	4	-	-	-	5	-	-	-	-	4	-	5	18

5 相談支援方法別件数（四万十町相談支援事業）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪 問	4	7	2	3	3	1	3	-	2	1	2	2	30
来 所	1	2	4	4	1	2	2	4	3	3	2	2	30
同 行	-	2	6	2	-	-	2	2	-	-	-	-	14
電 話	2	18	-	9	-	-	1	5	1	2	1	-	39
メ ー ル	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
関係機関連携	4	5	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	11
個別支援会議	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
そ の 他	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	4
合 計	12	36	21	20	4	3	8	11	6	6	7	4	138

【介護保険法による指定居宅サービス事業】

《デイサービスセンター緑林荘》（通所介護及び総合事業通所介護施設）

今年度も居宅サービス計画に沿って、居宅介護支援事業所とも連携を図り、通所介護計画書を作成し定期的に見直しを行い、ご利用者ご家族に説明し同意が得られた計画書に基づき個別対応の提供に努めている。

今年度は、要介護4と要介護5のご利用者の方が定期的に利用して頂けたが、介護認定で要介護から要支援へ変更となる利用者もおられた。また、要介護3以上になると施設入所を希望されるご家族様も多く入所にての利用廃止となるご利用者が多かった。

利用廃止となった空き枠も、新型コロナウイルス感染症予防や緊急事態宣言の影響で、上半期は新規ご利用者の問い合わせやおためし利用がなく減収の一方であった。

また、新型コロナウイルス感染症予防対策として県外からのご家族の帰省に伴い、利用を2週間休止することも減収につながった。

下半期からは、おためし利用のご利用者が増えて、新規契約に繋がっている。12月からは各介護支援専門員に空き状況を作成し配布することで、着実に空き状況の枠が埋まってきている。ただし、在宅生活での家族の介護負担軽減からショート利用のご利用者の方が増えてきている為、利用枠が埋まっても利用されない曜日があり、利用延べ人数を確保することが課題となる1年であった。

新型コロナウイルス感染症予防対策にあたっては、継続して乗車前の検温の実施・アルコールでの手指消毒の徹底を行っており、職員は勤務時のマスクの着用・検温・施設内の換気と消毒・公用車の消毒・手洗いうがいの徹底を継続して行っている。

＜総合事業通所介護事業＞

支援事業所には毎月サービス実施状況の報告を行いながらサービスの提供に努めている。

運動器機能向上加算は取得していないが、百歳体操を中心に運動を行い、下肢筋力を強化する為、外での歩行訓練も積極的に取り組んで行ってきた。また、認知症予防にも努め様々な脳トレーニングも引き続き行っている。

自宅での転倒にて、骨折・入院される方もいた。全体的には高齢の方が多く現状維持を保つことが精いっぱい状態であるが、引き続き運動機能向上と認知症予防の強化に努める。

1 事業内容

介護保険にかかる通所介護及び四万十町総合事業通所介護事業

2 活動内容

(1) 主な行事

	行事名
4月2日	お花見弁当
5月4日～9日	母の日プレゼント週間
6月15日～20日	父の日プレゼント週間
8月12日	枝豆収穫祭
9月14日～19日	敬老週間
12月24日	クリスマス会
12月26日	餅つき
12月29日～30日	忘年会
1月7日	新年会
2月2日	節分(豆まき)
2月26日	避難訓練(昼間火災想定)
3月25日	避難訓練(昼間地震火災想定)

(2) 機能訓練とレクリエーション

個別対応を基本とし、選択肢できるメニューの提供を毎回実施できた。午前中のレクリエーションは、ご利用者の要望をくみ取り、職員個々の得意分野を活かして提供を行った。運動を目的とした歩行訓練には、多くのご利用者が自主的に参加し、継続して行うことができた。園庭の散歩など季節の風景を見ながら気分転換を図る目的で歩行訓練をされるご利用者の方も見られた。百歳体操やゴムを使った体操にも多くの方が積極的に参加し機能向上を図る支援に努めている。

(3) 余暇・創作活動

ご利用者が自己選択し、それぞれのスタイルで、趣味的な活動を継続して行えた。縫い物、壁画作り、折り紙、カレンダー作成など幅広く活動が行っている。また、脳トレーニングやリズムを取り入れた手遊びなど毎回提供を行い、脳の活性化に努めている。

3 年齢別登録者数集計表

令和3年3月31日現在

	男 性	女 性	合 計
6 4 歳 以 下	0名	0名	0名
6 5 歳 ～ 6 9 歳	1名	1名	2名
7 0 歳 ～ 7 4 歳	0名	2名	2名
7 5 歳 ～ 7 9 歳	5名	0名	5名
8 0 歳 ～ 8 4 歳	3名	7名	10名
8 5 歳 ～ 8 9 歳	7名	15名	22名
9 0 歳 ～ 9 4 歳	7名	25名	32名
9 5 歳 ～ 9 9 歳	3名	11名	14名
1 0 0 歳 以 上	0名	1名	1名
合 計	26名	62名	88名

※ 最高齢は103歳の女性（要介護5）

	男 性	女 性	合 計
平均年齢（令和3年3月31日現在）	86歳	90歳	88歳
最 高 齢（令和3年3月31日現在）	98歳	103歳	

4 要介護別利用実績集計表（令和2年4月～令和3年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開 所 日 数	26	26	26	27	26	26	27	25	27	24	24	27	311
1 日 平 均 利 用 者 数	29.12	29.19	29.81	28.85	28.46	29.23	30.30	30.88	31.15	30.30	30.42	31.26	29.91
事 業 対 象	38	39	36	37	31	38	40	25	30	29	25	31	398
要 支 援 1	36	33	35	33	32	31	32	25	24	23	22	27	353
要 支 援 2	113	104	110	109	96	112	122	126	132	114	121	149	1408
要 介 護 1	125	119	116	133	144	148	155	146	190	178	196	209	1847
要 介 護 2	245	259	289	270	277	273	303	265	274	228	213	240	3137
要 介 護 3	119	92	72	77	66	48	62	74	75	55	58	80	890
要 介 護 4	64	97	97	102	75	93	88	90	95	85	76	88	1050
要 介 護 5	17	16	20	18	19	17	16	21	21	16	19	20	220
延べ利用者数	757	759	775	779	740	760	818	772	841	728	730	844	9303

（令和元年度 延べ利用者数 9,728名）

《デイサービスセンターさくら貝》（通所介護及び介護予防通所介護施設）

今年度は新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら、年に2回の運営推進会議の場で、行政や地域の皆さんの意見を伺いながら、地域に根差したサービスの提供を行った。

ご利用者の状況については、延べ利用人数は、昨年より256名減少し、収入は約350万円減収となった。特に上半期は、利用者数が落ち込み、10月より定員を15名から、水曜日と土曜日は10名に変更し、職員配置も変更した。下半期は、徐々に利用者数が増加し、昨年とほぼ同様の受け入れとなった。

現在、要介護5のご利用者はいないものの、重度の認知症や身体疾患のため、常に見守りが必要な方が数名おられ、利用人数や介護度で一括りにできない現状も見受けられる。職員の専門性や、高い対応能力が求められるため、職員同士のチームワークを密にし、ご利用者それぞれに寄り添ったサービスを提供した。

地域との関わりについては、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、直接ふれあう機会はなかったが、保育所とは共有スペースを利用して距離を保ちながら交流した。ご利用者のもちつきを応援してもらったり、ホールから歌を歌ってくれたり、運動会や節分の見学をさせていただくなどして交流を継続している。また、合同避難訓練も例年通り実施し、訓練を重ねることで危機意識も高まっている。

通所介護計画については、ご利用者の状態を把握し定期的な見直しを行い、一人ひとりにあったケアプランを作成し、サービスの提供を行った。

1 事業内容

- (1) 介護保険にかかる通所介護事業
- (2) 介護予防・日常生活支援総合事業

2 行事内容

四季折々にご利用者の楽しみに合わせた行事を行った。

(1) 主な行事

	行 事 名
4月	お花見弁当(1回)
5月	母の日週間、クッキング(おやつ) 1回
6月	興津保育園合同避難訓練、父の日週間、クッキング(おやつ) 1回
7月	クッキング(昼食) 1回
8月	かき氷週間、クッキング(おやつ) 1回
9月	敬老の日週間、クッキング(おやつ) 1回、運営推進会議
10月	保育所運動会、クッキング(昼食) 1回
11月	興津保育園合同避難訓練、クッキング(おやつ) 1回
12月	もちつき、忘年会2回、クッキング(おやつ) 1回
1月	新年会、クッキング(おやつ) 1回
2月	節分、クッキング(昼食) 1回
3月	クッキング(おやつ) 1回、運営推進会議

(その他)

- * 誕生日に手作りのカードをプレゼント
- * 母の日、父の日に手作り記念品のプレゼント
- * 敬老の日にひまわりの鉢植えをプレゼント

(2) レクリエーション

ご利用者の心身の状態などにあわせ、レクリエーションを実施した。午前にはスポーツレクや卓上レクを、午後には頭の体操を実施した。また、下肢筋力低下を予防するため、下肢筋力運動や百歳体操、ラジオ体操、ストレッチ体操など実施した。

(3) ボランティア来園状況

新型コロナ感染症拡大のため受け入れなし

(4) 保育所との交流

- 6月 3日 合同避難訓練・消火訓練
- 10月 3日 秋の運動会
- 11月25日 お店屋さんごっこ
- 12月28日 もちつき

(5) 小中学校との交流

6月 5日 興津中学校よりひまわりプレゼント

(6) 地域との連携

11月12日 興津地域ぐるみ学校安全体制整備推進委員会

2月24日 興津地域ぐるみ学校安全体制整備推進委員会

3 年齢別登録者数集計表

令和3年3月31日現在

	男 性	女 性	合 計
6 4 歳 以 下	0名	0名	0名
6 5 歳 ~ 6 9 歳	1名	1名	2名
7 0 歳 ~ 7 4 歳	0名	0名	0名
7 5 歳 ~ 7 9 歳	0名	4名	4名
8 0 歳 ~ 8 4 歳	2名	2名	4名
8 5 歳 ~ 8 9 歳	1名	6名	7名
9 0 歳 ~ 9 4 歳	0名	6名	6名
9 5 歳 以 上	0名	0名	0名
合 計	4名	19名	23名

	男 性	女 性	合 計
平均年齢 (令和3年3月31日現在)	79歳5ヶ月	85歳5ヶ月	84歳5ヶ月
最 高 齢 (令和3年3月31日現在)	86歳	94歳	

4 要介護別利用実績集計表（令和2年4月～令和3年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	26	26	26	27	26	26	27	25	27	24	24	27	311
1日平均利用者数	8.46	9.00	8.77	9.30	8.96	8.46	9.67	10.2	9.19	9.71	9.92	10.26	9.3
事業対象者	4	4	4	4	4	5	8	7	10	16	16	18	100
要支援1	26	31	31	25	22	10	12	13	4	3	0	0	177
要支援2	19	21	22	34	22	25	35	32	30	28	29	36	333
要介護度1	57	67	67	89	86	82	98	93	102	89	95	102	1,027
要介護度2	66	64	59	58	60	57	62	57	53	51	51	69	707
要介護度3	48	47	45	41	39	37	37	36	35	32	35	38	470
要介護度4	0	0	0	0	0	4	9	17	13	14	12	14	83
要介護度5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ利用者数	220	234	228	251	233	220	261	255	247	233	238	277	2,897

（令和元年度 延べ利用者数 3,154名）

《居宅介護支援事業所 りょくりん》

今年度は施設入所となったケースが7件、老衰や末期がんなどによる死亡が5件あった。介護度の高い利用者数は減りつつあるが、要介護2は増加しており、増収となった。年々、介護者の介護負担軽減のための短期入所生活介護の利用が増しており、今後利用率は上がるものと思われる。また、入所申請をする方も多く要介護者、介護者ともに高齢化しており、在宅生活への不安が高まっている。新型コロナにより県外に住む家族が帰省できない状況もあり、1人暮らしの利用者の訪問回数を例年以上に多くもち、本人、家族ともに安心して生活できるよう情報共有に努めた。

要支援者については、要支援1が減り、要支援2が増加しており昨年度の倍となっている。身体機能や認知機能面などの低下により要介護への移行が見込まれる。

利用者を取り巻く家族関係の複雑さや身寄りのない方などの困難ケースもあり、市町村をはじめ、地域包括支援センター、病院など、関係機関との協働での取り組みも多くあった。

今後、増々多様化していくケースにも対応できるよう、社会保障制度などの専門知識も習得していく必要がある。

1 事業内容

- (1) ケアプランの作成
- (2) 要介護認定の申請、及び更新申請の代行
- (3) 予防給付のケアプラン作成（四万十町からの委託）

2 要介護度別担当利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業対象者	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	18
要支援1	2	2	2	2	2	1	1	—	—	—	—	—	12
要支援2	9	9	8	8	8	9	9	8	9	8	8	8	101
要介護1	13	13	12	11	12	10	9	10	10	13	14	16	143
要介護2	11	12	15	15	15	15	14	12	11	10	8	10	148
要介護3	3	3	3	3	3	2	4	4	4	5	4	4	42
要介護4	1	1	2	4	3	2	3	3	3	2	2	1	27
要介護5	4	4	4	3	4	4	4	3	4	4	3	3	44
合計件数	44	45	47	47	48	44	46	42	43	44	41	44	535
新規利用	2	1	4	—	1	1	1	—	—	3	—	3	16

* 新規利用者には要介護から要支援、要支援から要介護への変更を含む

[地域における公益的な取組]

今年度、地域における公益的な取組みとして以下の内容を実施してきた。

1 (地域に向けた活動)

明成会地域サポート隊による活動の実施

- ・六反地駅・施設周辺の草刈り (年間2回) : 7月28日、10月24日
- ・宅老所へ出前講座 : 『替坂本』へ11月～毎月1回
『六反地』へ3月～毎月1回

2 (地域その他機関とのネットワーク活動)

- ・高知県立大学・高知リハビリテーション専門職大学の実習の受入れと交流を通して、関係機関とのネットワークづくりを積極的に実施
- ・くぼかわスポーツクラブの高知県障害者スポーツ推進プロジェクトに参加
- ・町内の作業所と連携し、毎週木曜日に園内喫茶を実施 (特別警戒中は委託販売のみ)

3 (福祉避難所の活用)

- ・災害時に備えた地域の防災意識の向上及びコミュニティづくりの一つとして、福祉避難所運営訓練に向けた企画会議を実施 (12月6日予定の訓練は中止)

4 (既存事業の利用料の減額・免除)

- ・介護保険事業 (デイサービスセンター緑林荘及びデイサービスセンターさくら貝) における社会福祉法人による利用者負担軽減を実施

《 職 員 研 修 》

明成会の職員として、法人、施設の方針にもとづき、使命感をもって各自の役割を的確に遂行できるように組織全体でサービスの質の向上と定着につながる育成的な職場環境を目指し、年間研修計画に沿って研修を行った。

1 法人研修

研修内容	開催日	対象者	内 容
新任職員研修	4月1～3日	新任職員 (7名)	明成会の経営理念、法人概要を理解し、福祉施設職員としての必要な基礎的知識・技術・技能を習得する。
経営理念・経営方針 についての研修	5月 各事業所	全職員	明成会の経営理念と経営方針の理解と浸透を図るために、レポートの提出やディスカッションの実施。
人権学習会	7月9、28日	全職員	福祉施設職員として人権と尊厳について理解を深める
交換研修	8月13～17日 8月17～22日	2名	法人内の事業所の理解と職員間の情報共有を図るための交換研修
中堅職員研修	10月6、19日	中堅職員 21名 役職者9名	外部講師による中堅職員から指導職を対象に求められる知識と役割行動など福祉職場で仕事を進めて行く上での基礎的な考え方を中心に学ぶ
人事評価者研修	10月21日	第1次評価者 14名	人事評価制度運用の実務について評価者の定期的な学習
事業継続計画(BCP) 訓練(出前講座)	11月15日	全職員	南海トラフ地震対策について「こうち防災備えちよき隊」による講習会
法人研究発表会	2月21日	全職員	法人内の研究や各事業所の取組み内容等互いに発表し合い、内発的モチベーションの向上を図った

2 事業所研修

【 オイコニア 】

研修内容	開催日	内 容
排泄支援研修	5月20日	おむつ、パットの当て方や今年度導入したホルダーパンツの使い方と特徴を理解する
リフレッシュ研修	7月15日	日頃の業務から離れ、リフレッシュすることで新鮮な気持ちでご利用者と向き合えるため、レク活動で行っているボッチャのルールを実践して覚える
講座	8月19日	精神障害や高次機能障害について、心理を理解して知識を活かし確かな技術で援助する支援を学ぶ
夜間緊急対応	9月16日	夜間の緊急対応の実践を行い、マニュアルの徹底と見直しを行う。緊急時の対応と連携の強化を図る
事故、ヒヤリハットについて	10月21日	事故とヒヤリハットについて理解し、視点の置き方や記録内容の統一を図る
感染症	11月18日	新型コロナウイルスについて、正しい知識を持ち、感染防止に向けた意識づくりを図る
リスクマネジメント	1月20日	福祉施設におけるリスクマネジメントについて知識を身につけ、事故を回避するための視点を養い事故防止につなげるとともに、日頃の記録の大切さや事故発生時の対応方法を学ぶ
虐待防止	3月17日	障害者の人権や虐待について理解を深め、虐待や身体拘束の予防につなげるとともに、ご利用者個々の自立への取組みについて考える

【グループホーム笑和・相談支援事業所わらわ】

研修内容	開催日	内 容
経営理念について	5月21日	明成会の理念等について理解と浸透を図る
災害時研修	4月29日 6月18日 8月20日 10月22日 12月17日 2月18日	火災、地震、風水害土砂災害を想定した訓練を実施し、災害時にご利用者を安全に避難できるよう職員間の連携と強化を図る
リスクマネジメント	7月30日	リスクマネジメントについて知識を身につけ、事故を回避するための支援を養い事故防止につなげる
虐待防止	9月24日	虐待について理解をし、虐待予防につなげる
感染症	11月19日	ノロウイルスやインフルエンザなどの感染症などの対応、集団感染防止にむけた意識づけを図る

プライバシー保護	1月21日	プライバシーの保護や個人情報保護法等に理解を深め、ご利用者の権利擁護につなげる
相談支援の現状	3月18日	相談支援事業所の現状や支援について理解を深めるとともに、関係機関との連携の大切さについて知る

【デイサービスセンター緑林荘・居宅介護支援事業所りょくりん】

研修内容	開催日	内 容
マニュアル研修	4月9日	マニュアルの見直しを行い、最新の制度やご利用者の状況などに応じた内容に変更する。
人権権利擁護 虐待防止研修	5月11日	倫理及び法令遵守・高齢者虐待・プライバシー保護 個人情報保護について理解をする
感染症研修	6月10日	ノロウイルスやインフルエンザなどの感染症や食中毒への対応、まん延防止策について理解を深める。
ヒヤリ・ハット事故 事例検討	7月9日	ヒヤリ・ハット報告の検証と事例検討を行い、事故発生時の対応について周知する。
各種の制度研修	8月10日	介護保険制度について理解する
福祉避難所開設訓練	9月10日	福祉避難所開設訓練・備蓄品リスト確認（机上訓練）
認知症ケア研修	10月8日	疾患別の認知症ケアに関する知識を習得し、早期発見・進行予防に取り組み、専門性の高いケアの提供を目指す。
食事支援研修	11月10日	高齢者の食事の理解と個々の食事携帯の対応について周知する。
災害時研修	12月7日	風水害・土砂災害時対応訓練（机上訓練）
介護技術研修	1月7日	腰痛予防に努め、ご利用者と職員が共に安心できる支援を学ぶ
ヒヤリ・ハット事故 事例検討	2月10日	ヒヤリ・ハット報告の検証と事例検討を行い、事故発生時の対応について周知する。
マニュアル研修	3月10日	マニュアルの見直しを行い、最新の制度やご利用者の状況などに応じた内容に変更する。 来年度の役割担当検討

【デイサービスセンターさくら貝】

研修内容	開催日	内 容
認知症ケア研修	10月8日	疾患別の認知症ケアに関する知識を習得し、早期発見・進行予防に取り組み、専門性の高いケアの提供を目指す。
感染症研修	6月10日	ノロウイルスやインフルエンザなどの感染症や食中毒への対応、まん延防止策について理解を深める。

介護予防研修	8月10日	介護予防についての理解を深める。
事故予防研修	毎月実施	ヒヤリ・ハット報告の検証と事例検討を行い、事故発生時の対応について周知する。
権利擁護研修	5月11日	プライバシーの保護、個人情報保護、身体拘束について理解を深め、ご利用者の権利を守るサービスを常に実践する。
災害時研修	9月10日	非常災害時の対応について協議し、職員の連携を深める。
風水害・土砂災害研修	12月7日	風水害・土砂災害時対応訓練（机上訓練）
利用者の食事形態	11月11日	食事形態と個々の嗜好、今後の改善点について協議する。
介護技術研修	1月11日	介護技術の基本動作について、実践研修を行う。
マニュアル見直し	3月10日	マニュアルの見直しを行い最新の内容に変更する。

広報活動

明成会で行っている事業を積極的に広報することにより、広く地域の方々に明成会を知っていただくことを基本的な目的としている。インスタグラム、ツイッターを活用し、明成会の事業や活動内容を分かりやすく、見やすい情報発信に取り組んだ。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策により面会が制限されており、ご利用者と家族が会う頻度が減少した。家族がご利用者の様子を知ることができるよう、広報誌に加え、誕生日に各家族へ写真入りのメッセージを送付した

[公益事業]

【配食サービス事業】

前年度同様に四万十町や各関係機関と連携・調整を図りながら町内の高齢者や障害者の方等に対し、昼夕2食の配食を行ってきた。

厨房の改築工事後、効率的な作業が行なえるようになり対応可能な食数を増やすことができ、4月から徐々に食数が増えはじめ、8月には当初予定の1日平均100食となったが、冬場に入りご利用者の入院や入所等により食数が減少し、年間平均は1日96.3食であった。

配達については、4月に配達員を1名確保できたが、配達員のコスト面が増加傾向にあり、これまで以上に多くの職員が配達に加わることで費用の削減に努めるとともに余裕のあるシフト調整が可能となった。また、独居の高齢者等のご利用者の中で食器類の紛失が見られるようになり、不定期に食器の確認日を決め回収状況をチェックし、食器類の入れ忘れが多いご利用者には弁当箱回収時の確認と家族への声掛け対応を行った。また、夏場には衛生面から弁当箱を小まめに回収することを心掛け、配食日誌による確認を徹底してきた。

配食サービス事業の目的の一つに「ご利用者の安否確認」が含まれており、配食サービスにおける安否確認ルールを統一するため3月に四万十町配食サービス事業連絡会が行われた。配達時の安否確認ルールを事前に利用契約時に個別に定めておくことが必要となり、介護支援専門員や町の担当者を含めた担当者会議の中で不在時の連絡体制と対応について話し合い、実施していくこととなった。

月別配食集計表

	実績数				実利用者数		
	公費	自費	小計	1日平均	公費	自費	小計
4月	2,528	254	2,782	92.7	84	8	92
5月	2,670	214	2,884	93.0	83	8	91
6月	2,620	210	2,830	94.3	83	7	90
7月	2,705	221	2,926	94.4	84	8	92
8月	2,917	182	3,099	100.0	89	7	96
9月	2,947	156	3,103	103.4	89	6	95
10月	3,069	126	3,195	103.1	87	7	94
11月	2,689	148	2,837	94.6	81	9	90
12月	2,839	166	3,005	96.9	86	8	94
1月	2,755	152	2,907	93.8	85	7	92
2月	2,518	118	2,636	94.1	81	7	88
3月	2,838	122	2,960	95.5	82	5	87
合計	33,095	2,069	35,164	-	1,014	87	1,101
平均	2,757.9	172.4	2,930.3	96.3	84.5	7.3	91.8
前年度平均	2,656.6	240.5	2,897.1	94.9	88.3	8.6	97.0

[収益事業]

【 宿 舎 運 営 事 業 】

今年度の平均利用率は89.8%と昨年(94.4%)を下回ってはいるが、3年度当初には満室になる予定である。昨年に引き続き、町内の不動産会社からの入居希望者の紹介による外部利用者の利用があるため、比較的空室率を抑えることができている。

しかし、建物の老朽化に伴って発生する様々な修繕が必要になっているため、定期的に点検を行い、計画的に修繕を行っていく。

利用状況一覧表（令和2年4月～令和3年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
職 員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
外 部	7	6	5	6	6	7	6	6	6	6	6	6	73
空 室	0	1	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	11